

大腸がん



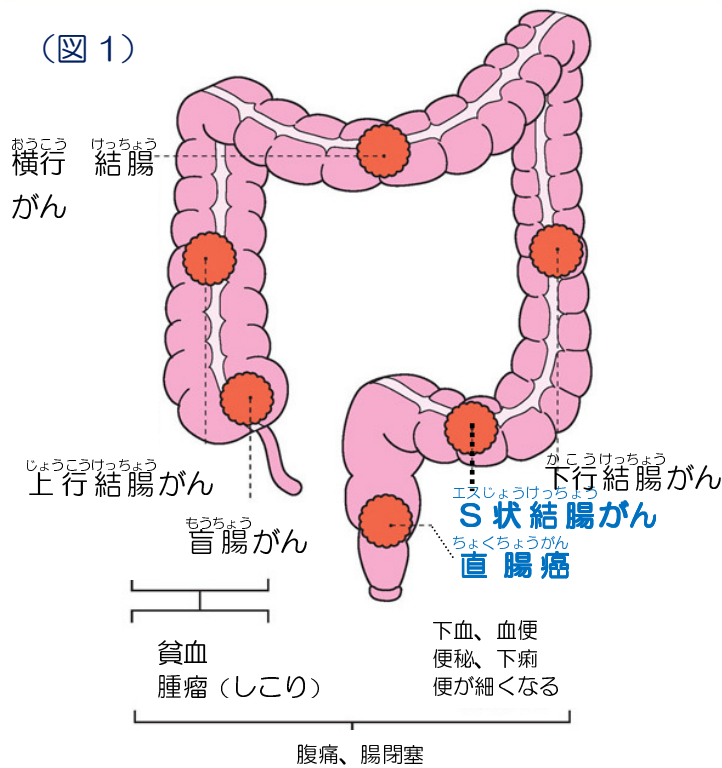
松阪市マスコットキャラクター
「ちやちやも」

作成：医事課

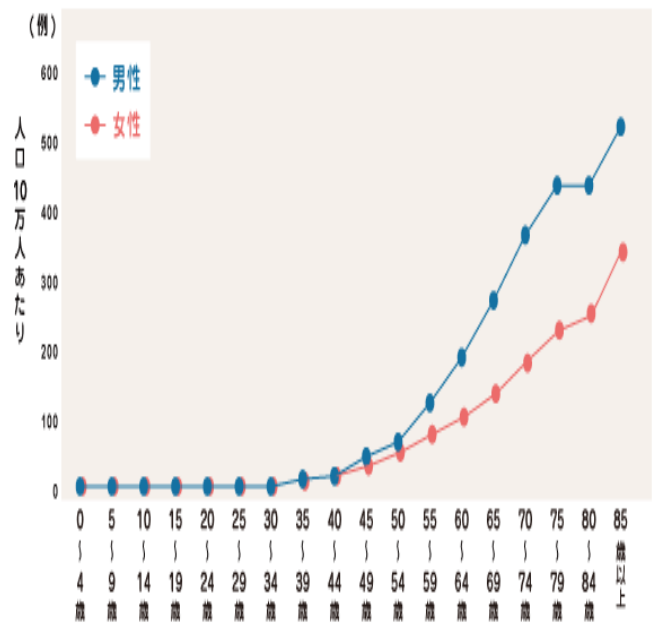
<病気について>

大腸がんは大腸表面の粘膜にある細胞から発生します。大腸がんの発生は過半数が大腸下部のS状結腸と直腸です（図1）。男女ともに、大腸がんは臓器別で上位を占めます。増加の要因として高齢化社会の到来、食生活の欧米化が考えられています。大腸がんにかかる人の割合（罹患率）を年齢別にみると、40歳から年を重ねるにつれて増えています（表1）。

（図1）



（表1） 大腸がんの年齢別罹患率（2006年）



出典：独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター

資料：大腸癌研究会より

<症状>

大腸がんの症状は、大腸のどこに、どの程度のがんができるかによって異なります。一般に血便、下血、下痢と便秘の繰り返し、便が細い、便が残る感じ、おなかが張る、腹痛、貧血、原因不明の体重減少などを契機に発見されることが多いとされます。また早期のものは自覚症状に乏しく検診で偶然に発見されることがほとんどです。

症状のある方は早めの受診は勿論ですが、早期発見のためには定期的な検診をお勧めしています。

<検査>

びんせんけつけんさ 便潜血検査

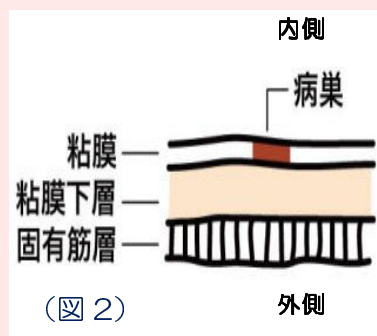
便に血液が混じっているかを検査します。厚生労働省の研究によって便潜血検査の検診を毎年受診することで大腸がん死亡が60%減ることが報告されています。

だいちょうないしきょうけんさ 大腸内視鏡検査

大腸内部を観察する検査です。ポリープなどの病変が見つければその部分の細胞を採取して、悪性度を調べます。

<治療法>

大腸がんの治療は、がんの進行度（ステージ）に応じて行われます。進行度は、がんの深さにより決まります。病巣が大腸の粘膜までのがんを「**早期がん**」、筋肉に達すると、「**進行がん**」と呼んでいます。（図2）



内視鏡的治療（早期がん）

内視鏡を使って大腸の内側からがんを切除する方法です。比較的浅い位置にあるがんに対して用いられる方法です。

外科的治療（早期がん～進行がん）

早期がんでも深いところまで達したがんには進行がんと同様に手術が必要です。近年は腹腔鏡という内視鏡を用いて小さな傷で行う手術（**腹腔鏡下手術**）が増えてきています。身体への負担が少なく、術後の回復が速いという利点があり、当院でも腹腔鏡下手術を積極的に行っています。

抗がん剤治療（進行がん）

がん細胞がお腹の中や他の臓器（肝臓や肺など）へ広がっている場合に行われます。また、手術後の再発予防として行われることもあります。

<入院費～概算～>

大腸がんの大腸開腹手術入院の場合

1割・2割負担の場合 44,400円（上限） 3割負担 440,000円

大腸がんの腹腔鏡手術入院の場合

1割・2割負担の場合 44,400円（上限） 3割負担 450,000円

※食事療養費、個室料金等の自費分を除きます。

※高額医療の方は、申請により限度額認定証が交付されますので、詳細は医事課まで御連絡下さい。

<平成28年度当院データ>

大腸がんの開腹手術 15人 平均入院日数 34.9日

大腸がんの**腹腔鏡手術** 21人 平均入院日数 16.3日

※パンフレットに関するご不明な点等ございましたら、

医事課までお気軽にお尋ね下さい。

松阪市民病院